



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 門間孝一／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎ (03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>



全消協第34回定期総会 ■ 団結権回復を見据え当面の活動方針を提案

9月6日、福島県福島市にて全消協第34回定期総会が開催され152単協から360人の代議員・傍聴者が参加した。

この総会は「中間年総会」として、2011年度の活動方針や第33回定期総会（熊本）で決定された、第2号議案「組織・財政確立のための中長期課題」に関わる会則・規程の改正等のために開かれたもの。

「2011年度の当面の活動方針（案）」、「会則・規程の一部改正等について（案）」、「2011年度予算（案）」が提案され、いずれも賛成多数で可決された。

質疑・討論の中では「消防職員の団結権のあり方に関する検討会」の議論経過や組織強化・拡大の成果についての意見が多く出された。また会場内では宗像消防再任用拒否事件訴訟支援活動や横浜消協の公務災害認定請求活動のためのフェイスシールド販売が行われ全国の仲間の支援を呼びかけた。最後に役員改選があり、会計監査は井上知己さん（近畿・四條畷市）が退任し、須藤洋典さん（四国・高松市）が選任された。

えさきたかしさん初当選



政権交代後、初の大型国政選挙となった第22回参議院選挙で、自治労組織内協力候補で比例代表に立候補したえさきたかしさん（民主党）が初当選した。連合は比例代表で擁立した組織内候補のうち、10人が当選した。民主党は改選54議席を下回る44議席にとどまり、与党として過半数確保は出来なかった。

全消協第34回定期総会に出席した江崎孝参議院議員は、あいさつの中で「参議院議員選挙のご支援に感謝する。消防職員の団結権問題を含めた公務員の労働基本権確立に向け、全力で取り組んでいく。全消協のより一層のご支援をお願いしたい」と力強く訴えた。

組織強化・拡大に向け さらなる取り組み強化を

総会冒頭、本年7月に埼玉県防
災航空隊の災害救助時のヘリ墜落
事故も含め、今日まで事故等で消
防職員の尊い命が失われたことに
対し、総会参加者全員で一分間の
黙祷を捧げ、哀悼の意を表した。
総会議長には福島・南会津消防研
君島博一さんと長野・上田消防協
塩沢篤さんが選出され議事進行を
務めた。

迫大助会長よりあいさつがあり
「団結権は着実に手に届くところ
まで来ている。団結権獲得後の体
制・財政の確立、人材の育成など
が急務であり、全消協総体として
取り組まなければならない」と述
べた。

消防結成への協力のお礼を述べ、
福島県の紹介、今後の県内未組織
消防本部組織化への意欲を述べ、
歓迎の挨拶とした。
続く来賓あいさつでは、自治労
本部を代表し軍司輝雄副中央執行
委員長があいさつ。「参議院議員
選挙での協力に対し、感謝してい
る。検討会の議論経過を注視しつ
つも、自治労総体として未組織消



「消防職員の団結権のあり方に関する
検討会」に全消協会長として参画できた
ことは、全消協の存在を国が明確に認知
した、画期的なことだ。

団結権回復が現実味を帯びている中、
全消協は団結権をもつべき組織となるの
はもちろんのこと、今以上の団結と研鑽に
よって難題を乗り越えなくてはならない。

これからが本格的なたたかい。志を一
つにし、全消協活動を行っていこう。

より強い団結を

迫大助会長あいさつ



あいさつを行う軍司自治労本部副
委員長



代議員より支援要請

防職員の組織化に、より一層取り
組むべく『消防職員の組織化方
針』を決定した。全消協とより強
固な連携体制を確立し、ともに団
結権の獲得、組織強化・拡大に全
力で取り組んでいく」と決意表明
した。

続いて、栗城自治労福島県本部
執行委員長、自治労協力国会議
員・江崎孝参議院議員、高木克尚
福島市議会議員から、消防を取り
巻く課題に対する取り組みと、全
消協活動への連帯のあいさつが
あった。

最後に、民主党消防政策議員懇
談会会長・小平忠正衆議院議員を
はじめとする国会議員の方々、P
S I J C (P S I 加盟組合日本
協議会) の仲間からの祝電が披露
された。

新規加盟単協紹介では、昨年総
会以降に加盟した熊本県天草消防
行政研究会が紹介され、嶋田順一
会長からお礼と結成に至る経過や
決意が述べられた。
報告議事では、2010年度活
動経過報告、2010年度会計決
算報告、2010年度会計監査報



横浜消防協が労災認定活動に対する支援を求めた

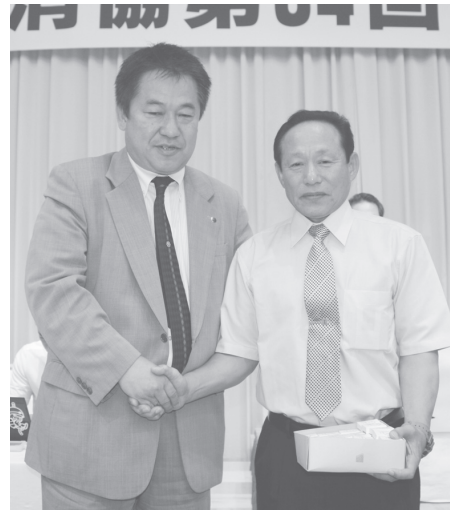
仲間のために 単協からの決意表明が



告が執行部より行われた。各種報告に引き続き、質疑・討論が行われ「新規加盟単協会費の免除規程を、1年に延長できないか」「組織拡大対策交付金を、組織率の低いブロックにこそ多く交付すべきでないか」「検討会等の情報をHP等を活用して、早い情報提供ができないか」(北海道・苫小牧消防協)、「PSI活動の成果が見えない」「20年以上前から組織強化・拡大を目標に掲げているが、成果があがっていない。目標を達成するために、現状分析と総括、取り組み強化を行うべきだ」(宮崎・都城消防協)、「救急隊を中心に休憩時間を取得できない現状である。団結権問題、たけ



なく、『2006号通知』や関係法令に対する取り組みを、自治労と連携してより一層強化していくべきではないか」(神奈川・横浜消防協)、との質問がなされた。なお都城消防協から口蹄疫での支援についての御礼、横浜消防協から訴訟に対する支援要請が、それぞれなされた。



新たに1単協・86人が加盟
熊本県：天草消防行政研究会

答弁では「会費免除については、自治労規約などを参考にしながら検討を行う」(門間孝一事務局長)、「これまで5カ年3万人体制の確立や拡大計画を示してきたが、成果が上がっていない今、一度オルグ手法や拡大計画について精査し、具体的な組織強化・拡大方針およびアクションプランを作成する。また自治労も『消防職員組織化方針』を決定しており、より強固な連携体制を確立して、未組織オルグを行っていた、できた

い」「情報提供の仕方については、なるべく早い対応ができるようにしていく」「PSI加盟によって、国際的にも認知され、ILOに対する働きかけも強められた。団結権問題が進展したことにも、寄与

している。他産別との連携も、今後の全消協活動に必要なことだ」

「2006号通知以降、厳しい状況であることは認識している。関係省庁に対し、関係法令の適切な運用がなされるよう申し入れを行う」(迫会長)、と答えた。

最後に特別報告として、休日の振替問題を抱える板野東部消防協より、当局の不適切な処置に対して措置要求や、司法への訴えも視野に入れたたたかいを断固として行うとの強い決意表明がなされた。

2011年度の当面の活動方針(案)は片田浩副会長より提案され、「今年度より2年間の活動方針の修正・補強ではなく、特に活動を強化していかなければならぬ事について、1年間の活動方針として提起する」と説明したうえで、組織強化・拡大の具体化を柱とする方針を提起した。

会則・規程の一部改正等について(案)は、門間孝一事務局長、2011年度予算(案)は住吉光男副会長より、それぞれ提起された。

引き続き、議案に対する質疑・討論が行われた。横浜消防協から「横浜市は3300名の職員が存在する。しかしまた組織化が進んでいないのが現状であるが、組織化すれば全消協活動にも大きく寄与できるため、非会員の人数を鑑みた特別支援をお願いしたい。また活動方針に記載のあるとおり、

訴訟支援も重ねてお願いしたい」と述べた。

片田浩副会長から「状況を加味しながら幹事会で検討していく」との答弁がなされた。

答弁の後、採択が行われ、いずれも賛成多数で可決された。

最後に迫副会長の発声で「団結がんばろう」を行い、総会を終えた。

2011年度全消協活動予定

| 年間活動計画 | 機関会議 | 調査・事務 | 労働講座・研究集会 |
|----------|-----------------------------|-------------------|--------------------------|
| 2010年10月 | 第1回幹事会 | 納入人数調査 | |
| 2010年11月 | | | |
| 2010年12月 | 第2回幹事会 | 納入調査集約 | 第41回労働講座 (東京・8~10日) |
| 2011年1月 | 第3回幹事会 | 各種調査発送 会費請求書送付 | 全消協・自治労合同組織化対策会議 (19日) |
| 2011年2月 | 上半期会計監査 | | |
| 2011年3月 | 第4回幹事会 | | 第2回リーダーセミナー (都内：3月上旬) |
| 2011年4月 | | 調査集約 | |
| 2011年5月 | 第5回幹事会 | | |
| 2011年6月 | 活動方針小委員会 役員推薦委員会 | 調査結果公表 会費納入期限 | 第40回研究集会 |
| 2011年7月 | 第6回幹事会 期末決算監査 | | |
| 2011年8月 | 第7回幹事会 第35回定期総会 (長野：23日) | | |
| 2011年9月 | | | |

「消防職員の団結権のあり方に関する検討会」第7回開催

8月18日、第7回「消防職員の団結権のあり方に関する検討会」が開催された。

冒頭、小川座長のあいさつの後、事務局から、資料に基づき、団結権のあり方に関する主要な論点について説明が行われ、その後フリーディスカッションが行われた。委員の主な意見は次の通り。

・労働者が団結することにより、当局と交渉を行うことが重要であると考えており、当然団結権と団体交渉権は、セットであると考えている。

・団結をするのは交渉が目的なのであり、団結権と交渉はセットと考える。団結権は回復するが、当局との交渉等を行わない制度を創設した場合、話し合い等の名目で実質上の交渉が行われることが懸念される。この場合、地方公務員法に定めるルールに基づかない実質上の交渉が行われることになり、かえっておかしいことになる。そもそも、消防職員については、職務の性質上、団結権を回復することがなじまないと考えている。

・現行地方公務員法第52条5項において、当局と交渉する団体の結成を禁止しているのだから、団結権について明確に否定して

るわけではないのではないか。法律の解釈により、現在存在する消防職員の団体について団体交渉権を有さないが、団結権を有する職員団体として位置付けることはできないか。その上で、消防職員の勤務条件については、消防職員委員会に監視機能をもった第三者機関を設置すること等により改善をはかることが適当でないか。

・消防職員の安全を確保するためにも、労働者としての権利を守ることは重要。団結権の回復については、懸念される事項について法的な手当をするといった方法をとることにより、与えるべきものは与えるということも考えられるのではないか。

・全国消防職員協議会はこれまで地方公務員法第52条第5項に抵触しない限りにおいて活動してきた。今後は、交渉等により自らの力で勤務条件等の環境を整えることができるようにしていくことが必要ではないか。消防職員にはプロ意識があり、団結権の有無にかかわらず、災害時に出勤しないといったことは考えられない。

最後に座長より「公益委員によるワーキンググループを設置し、議論を整理することとした」と

の提起があり、公開性の確保を求める意見等があったものの、これを了承した。また最終的な取りまとめ時期を11月中と出来るよう、議論を進めていきたいとの発言が座長よりあった。

現在はワーキンググループを開催し、専門的、第三者的立場で議論整理がなされている。ワーキンググループで一定の考え方をまとめ、本会議を開催し最終的な取りまとめとなる見込みだ。

※ 消防職員の団結権のあり方に関する検討会事務局（総務省自治行政局公務員部公務員課 消防庁消防・救急課）作成 議事概要より引用
全文については、総務省ホームページを参照願います。



自治労野球全国大会に 苫小牧消協が 初出場ながら、堂々の第3位

第26回 全日本自治体職員等野球選手権 全国優勝大会（香川） 試合結果

| | 1日目 9/11 (土) | 2日目 9/12 (日) | 3日目 9/13 (月) |
|-----------------------------|----------------|----------------|----------------|
| 各野球場は第一試合のみ1回戦のみの対戦。2回戦以降は、 | 準決勝・決勝 | | |
| A | 香川県野球連合会・第1野球場 | 香川県野球連合会・第2野球場 | 香川県野球連合会・第3野球場 |
| B | 香川県野球連合会・第1野球場 | 香川県野球連合会・第2野球場 | 香川県野球連合会・第3野球場 |
| C | 香川県野球連合会・第1野球場 | 香川県野球連合会・第2野球場 | 香川県野球連合会・第3野球場 |
| D | 香川県野球連合会・第1野球場 | 香川県野球連合会・第2野球場 | 香川県野球連合会・第3野球場 |

優勝：福山市職員労働組合

準優勝：福山市職員労働組合

第3位：苫小牧市消防職員労働組合

第4位：福山市職員労働組合

第5位：福山市職員労働組合

第6位：福山市職員労働組合

第7位：福山市職員労働組合

第8位：福山市職員労働組合

第9位：福山市職員労働組合

第10位：福山市職員労働組合

第11位：福山市職員労働組合

第12位：福山市職員労働組合

第13位：福山市職員労働組合

第14位：福山市職員労働組合

第15位：福山市職員労働組合

第16位：福山市職員労働組合

第17位：福山市職員労働組合

第18位：福山市職員労働組合

第19位：福山市職員労働組合

第20位：福山市職員労働組合

第21位：福山市職員労働組合

9月11～13日に香川県高松市等で開催された、第26回全日本自治体職員等野球選手権全国優勝大会に、消防協単独チームとして、苫小牧市消防職員協議会が出場した。これは大会史上初めてのことであり、全国の注目を集めた。

苫小牧消協は、11日の初戦で古豪大阪市従業員労働組合と対戦。山田投手の好投もあり、5-3の接戦で制すると波にのる。翌12日の福島市役所職員労働組合戦では打線が爆発。相手のミスを見逃さず、一番中村の先制3塁打や寒河江の走者一掃3塁打などで、終わってみれば7-0の7回コールドで準決勝に進出した。初出場初優勝もあるのではと期待がかかった13日の準決勝では、惜しくも敗戦したものの、別府市職労と同率3位という堂々の結果